

課コード	000405	作成日	平成20年3月31日
所属名	企画課	作成者	久米秀幸

政策名(上位目的)
総合計画の推進と資源獲得に向けたシティプロモーションの推進
目の名称
企画費

	分野	部	課	施策・事務事業
計画コード				
	款	項	目	事項
科目コード	06	01	25	
(旧科目コード)	06	01	81	01
	06	01	98	40 03

事業名			戦略性
天竜浜名湖鉄道経営支援事業			
事業概要			
目的	(対象、意図、求められる結果)	開始年度	終了予定年度
沿線住民の生活基盤を支える大切な公共交通機関を存続させ、安定した沿線住民へのサービスを提供するため、浜松市天竜浜名湖鉄道経営助成に関する条例に基づき「基金」を運用し、鉄道会社の経営維持を公的に支援する。		昭和 18 年	平成 30 年
活動内容			
<p>&lt; 欠損補助金 &gt;                      経営上、欠損を生じた額に対し予算の範囲内(欠損額10,000千円以上の場合に100,000千円を限度に補填)で助成を行う。</p> <p>&lt; 近代化施設整備事業補助金 &gt;                      国(独立行政法人)や県の補助対象事業で、かつ、天竜浜名湖鉄道経営基盤強化計画に基づいた事業のうち、鉄道会社の負担分に対し、基金から助成を行う。(H18事業: 橋りょう・トンネル・ホームの改修、コンクリート枕木化など)</p> <p>&lt; 鉄道施設整備事業補助金 &gt;                      国(独立行政法人)や県の補助対象とならない事業で、天竜浜名湖鉄道経営基盤強化計画に基づいた車両の検査や踏み切りの新設などについて鉄道会社が単独で行うべき事業に対し、基金から助成を行う。(H18事業: 踏切警標新設、軌道整備、車両重要部検査など)                      浜松市天竜浜名湖鉄道経営助成基金補助金交付要綱に基づき助成を行う。</p>			
事業の性格分類		実施根拠(法令、条例等)	新市建設計画事業 / ワークショップ提案事業
義務的事業	任意的事業	浜松市天竜浜名湖鉄道経営助成に関する条例	× / ×
事業運営方法			
直営	一部委託	全部委託	補助等

		H17年度決算	H18年度決算	H19年度最終予算	H20年度当初予算	H21年度計画額	H22年度計画額	前期4年間計
事業費(千円)		0	622,433	257,920	218,334			
財源内訳	国庫支出金							
	県支出金		28,000	28,000	28,000			
	市債							
	受益者負担分(使用料等)		14,420	14,420	14,420			
	その他		566,433	201,920	162,334			
	一般財源		13,580	13,580	13,580			
人件費		8,000	8,000	4,000	4,000			
内訳	人工	1.00	1.00	0.50	0.50			
	単価	8,000	8,000	8,000	8,000			
計	年間経費	8,000	630,433	261,920	222,334			
	受益者負担率	0.0	0.0	0.1	0.1			

性質別内訳		扶助費	公債費	物件費	維持補修	補助費等	積立金	投資及び出資金	貸付金	繰出金	投資的経費	公営企業
平成 18	人件費 8,000					150,000	472,433					
19	4,000					199,300	58,620					
20	4,000					161,343	56,991					

定量評価							
指標1		単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
年間赤字(当面の間年間赤字を0千円)	目標	千円	0	0	0	0	0
	実績	千円	63,283	70,000			
年間経費(事業費・人件費の合計)		千円	630,433	261,920	222,334		
単位当たり経費		千円/単位	-10	-4	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
単位当たり経費変動率		%		37.6%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

指標2		単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
	目標	%					
	実績	%					
年間経費(事業費・人件費の合計)		千円	630,433	261,920	222,334		
単位当たり経費		千円/単位	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
単位当たり経費変動率		%		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

定性評価  
過年度の実施内容

平成18年度から掛川市の事業を引き継ぎ、浜松市に「浜松市天竜浜名湖鉄道経営助成基金」を設置し、一般会計による基金の管理と天竜浜名湖鉄道への助成をしている。  
平成20年度までは、後期5か年計画のとおり、県 = 28,000千円、沿線市町 = 28,000千円の基金造成を行う。  
平成21年度からの助成方針について検討中である。

事前評価	必要性	A 高い B ↑ C ↓ D 低い	(分析・理由) 浜松市は沿線市町最大の出資比率、駅数、営業キロ数を持ち、天竜浜名湖鉄道の経営健全化に大きな責任がある。地域の生活路線である鉄道を存続させるため、浜松市として、県・沿線市町と協力し、経営助成を継続する必要がある。
	行政関与の妥当性	A 高い B ↑ C ↓ D 低い	(分析・理由) 天竜浜名湖線は、地域住民の重要な公共交通である。また、地方ローカル線の駅は、地域アイデンティティを保つ重要な役割を担う。一度廃止した路線を復活させることは容易ではなく、現存する天竜浜名湖線を存続させるため、鉄道会社の経営維持を公的に支援する。
事後評価	有効性	A 非常に有効 B やや有効 C あまり有効でない D 有効でない	(分析・理由) 天竜浜名湖鉄道の経営に当たっては、基金(行政)からの支援が必要である。 平成19年度は経営支援に100,000千円、施設整備に97,288千円の助成をし、沿線住民の大切な交通機関である天竜浜名湖鉄道の存続を進めた。
	効率性	A 単位当たり経費が前年比マイナス B 単位当たり経費が前年とほぼ同じ C 単位当たり経費が前年比プラス D 評価できない	(分析・理由) 基金への造成額は前年度と同額。

今後の事業展開		
規模		(分析・理由)
現状	拡大・充実 現状のまま継続 縮小 廃止	天竜浜名湖鉄道を将来に渡り存続させるため、基金を適正に活用し、天竜浜名湖鉄道株式会社に対し公的に支援する。

具体的な改善内容・事業の方向性等

天竜浜名湖鉄道がこれまでの「経営基盤強化計画」を改め、「新経営計画」を策定する予定であり、これに基づき新たな助成方法を検討するとともに、当事者として、天竜浜名湖鉄道に対しより一層の自助努力を促すことによって、沿線市町にとって大切な公共交通である天竜浜名湖線を将来にわたって存続させる。  
また、平成20年度までは後期5か年計画の中で、基金の造成額を決定しており、継続して基金の存続と基金からの助成を進める。平成21年度以降の助成の方針については県、沿線市町とともに検討中である。  
(問題意識) 基金から経営支援を続けているものの、会社の累積赤字は年々増え続け、H19の実績見込みで4億6千万円(資本金6億3千万円)に上る。現時点の会社の経営は危機的状況にあり、運営方針等の抜本的な改善策が求められる。このため、株主である沿線市町としても、H21からの新経営計画を的確に軌道修正するとともに増客対策を進める。また、天竜浜名湖鉄道経営助成基金についても、新経営計画による事業予測を的確に判断し必要な資金の助成を継続し、天竜浜名湖鉄道の経営健全化をバックアップする。  
(想定結果) 市の実施が適当なもの

〔備考〕事業に対する市民・市民活動団体・事業者・議会からの指摘

H17.9議会 渥美 誠市議「天竜浜名湖鉄道の経営健全化について」  
H17.11議会 湖東 秀隆市議「北部地域観光開発事業について」  
H20.2議会 太田 康隆市議「天竜浜名湖鉄道について」